

「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト
「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業
第5回 教材研究会

【発行】
 令和元年 12月
 高知市教育委員会
 学校教育課
 学力向上推進室

学びに熱中する子供の姿がここにある！
 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業では、教材分析力・授業分析力の向上を目指し、潮江東小学校（指定校）を会場に教材研究会・授業研究会を実施しています。今回は、第5回【教材研究会】（12月13日実施）での学びの様子を紹介します。

これまでのレポート
 「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクトの研究会レポートは、HPに多数掲載！



提案の主旨

第1学年 単元名「じゃんけんやさん」をひらこう
 （国語科）教材名「じゃんけん」（東京書籍1年下）
 授業者 大石 美樹 教諭（高知市立潮江東小学校）



提案の主旨

第3学年 単元名「三角形と角」（東京書籍3年下）
 （算数科）授業者 横田 征爾 教諭（高知市立潮江東小学校）



1能力ベースの単元構想について
 第4回授業研究会における齊藤先生のご指導を踏まえて、**言語活動の質を高める**ための四つのポイント（レポートNo.4参照）について、図1のように再考した。

①「学習活動の『真正さ』」は、学校行事と関連付け、一年生が、自分ごととして本気になることができるよう設定する。
 ②『内容』の充実」は、単元全体を通して言語活動を行うことを重視し、「話す・聞く」を併行して、毎時間練習を積み上げていく。
 ③「学習活動の質的向上」は、「話す・聞く」ことの量と質が担保されるように、時間確保とリアルな練習場面の設定をする。
 ④言葉による「見方・考え方を鍛える」は、子供たちの経験やこれまでの学びを学習貯金などで見える化してつなぐ。

2本時で育成したい資質・能力について
 一単位時間に資質・能力を育成するうえで、潮江東小学校では、これまでの取組から、大きく二つの課題が見られる。一つ目は、「本時新たに積み上げる力の明確化の弱さ」である。課題解決のため、図2にあるように既習と未習を明確化して、本時で何を積み上げて、新たに何ができるようにさせたいのかを授業者が焦点化し、指導の手立てをもつようにする。二つ目は、「一時間の中で、ステップアップさせる過程での指導の弱さ」である。課題解決のため、「話す・聞く」活動の途中での確かな指導・支援を入れることで、子供たちの気付きや理解を促し、子供自身が、一単位時間の終わりに高まった自分自身を自覚し、自分なりの「納得解」をもてるようにする。

【図1 齊藤先生の9月のご指導を基に単元を再考】
 能力ベースの授業づくりを進めていくために、単元全体の在り方を考える
 — 1年生の単元では？ —

「内容」の充実
 ★話し方のポイントを理解したらずく使う
 ★話すこと・聞くこと 両方を組み込む

3つの観点と大事な言葉・順序・資料に着目し、分かりやすく説明する姿

学習活動の「真正さ」
 ★学校行事中での役割設定
 ★自分ごとの「問い」

見方・考え方を鍛える
 ★子どもの経験を引き出す
 ★学習貯金や 振り返りをつなぐ

言語活動
 6年生を送る会外での「じゃんけんやさん」を聞いて紹介して楽しむ活動

質を問ひ直す

学習活動の質的向上
 ★作成途中も、毎時間話す時間の確保
 ★リアルで多様な練習場面の設定

大事な言葉や順序 絵や身振りと関連

【図2 一年生の「話すこと・聞くこと」の系統一覽】

単元・教材名	育成してきた資質・能力	<指導事項>
はきはきあいさつ	場面や状況に合わせた言葉遣いで話す力 相手に聞こえる声（発声・発音）で挨拶する力	(H)イ A話すことウ
よろしくお	丁寧な言葉遣いで自己紹介する力 身振なことや経験したことから話す事柄を選ぶ力	(H)キ A話すことア
どもだち	丁寧な言葉遣いで話題に注目を、みんなに聞こえる声で話す力 見つけたものの中から話を聞きたいことを決める力	(H)キ A話すことア
きいて	連続するために大事な言葉を聞き取る力 大事なことを落とさないようにメモしてみんなに伝える力	(H)ア A聞くことイ
はなしたいな	話題と話題の関係を整えて話す力 話したい出来事を選び、話の組み立てに沿って話す力	(H)カ A話すことイ
ききたいな	相手の話を興味を持って聞き、感想を述べたり質問したりする力 話題を伸ばし話や文章の中で使う力	(H)カ A聞くことウ
すきなものを	相手の話を集中して聞き、質問したり質問に答えたりする力	(H)カ A話すことア
「歯がゆげたらどうするの」	文章を読んでいて疑問に思っているところや違うところを見つけてお気に入りのやり方とそれを表す大事な言葉を見つけて決める力 自分の経験などから伝えるために必要な事柄を選んで伝える力	(H)ク A話すことウ

未単元で付いた力
 伝えるために必要な事柄を選び、順序よく話す力
 <指導事項> (H)ア、A話すことア、イ

工夫のポイントへの気付き ⇄ 話し聞きながらできるようにする

1能力ベースの単元構想について
 今年度の調査結果から、具体的な操作や観察を通して、図形を構成する要素の関係（等辺）に着目し、それを根拠に表現する活動が十分でなかったことが見取れる。

「円と球」と「三角形と角」の学習を、より強く関連付けた単元にすれば、子供自身が等辺に着目し、弁別や作図の根拠を表現しあう活動を仕組むことができ、めざす資質・能力を育むことができるのではないかと考えた。

【円の学習で大切にしたこと】
 ○半径の長さはどこも等しいこと
 ○コンパスの機能の一つである「等しい長さを測り取ることができる」ということ
 これら子供自身が見いだすことができる活動にする。

【三角形の学習へのつながり】
 ○二等辺三角形、正三角形の等辺の根拠につながる。
 ○二等辺三角形、正三角形の作図、特徴の捉え、性質の理解につながる。

単元の構想のポイント

円の性質
 コンパスの機能
 （等しい長さを測り取る）

二等辺三角形
 正三角形

関連付けて考える活動を充実させる

図形を構成する要素の関係に着目し、等辺を引き出す

二等辺三角形や正三角形の性質を見いだしたり表現したりする活動を豊かにする

「三角形と角」の単元の構想（提案）

単元の導入時に円の性質と二等辺三角形や正三角形の性質を関連付けて考える場面を設定

定規とコンパスを用いた作図

具体的な活動を増やす

単元	時間	内容	指導事項
二等辺三角形と正三角形	6時間	二等辺三角形の性質の発見、作図、特徴の捉え、性質の理解	(H)カ、(H)キ、(H)ク、(H)ク、(H)ク、(H)ク
三角形と角	3時間	三角形の分類、内角の和、外角の性質	(H)カ、(H)キ、(H)ク

二等辺三角形と正三角形（6時間） 三角形と角（3時間）
 具体的な活動を豊かに行うよう設定

講師による全体指導 **言語活動・数学的活動をいかに組織するか**

講師 高知県教育委員会事務局学力向上総括専門官（島根県立大学教授） 齊藤 一弥 先生

重要 ①改めて”言語活動”をいかに組織するか？
 — 学びの質を問う —

①コミュニケーション能力の基盤としての力を育てる
 「話すこと・聞くこと」の指導は、「人との関わりの中で伝え合う力を高める」という国語科の目標と強く結び付いている。学習の内容を充実させるために、
 ★目的、場面、状況の設定をする
 ★より明確な他者意識をもたせる
 ことに対応できているかどうかを見直す必要がある。

②できるようになったこと
 言語化・概念化を「可視化」で支える
 学習活動の質的向上を目指していくために、これまでにできるようになったことを土台にして、新たな学びの場を用意することが大切である。特に、学びのプロセスの中で子供たちができるようになったことを「可視化」し、共有する必要がある。
 ★絵や図や表などを用いて関係性を可視化する
 など、子供たちの思考や言語化を支える工夫が必要である。



重要 ②数学的活動をいかに組織するか
 — 単元のまとまりとの関わりの中で —

③真正さの追究
 円の単元で、円と円の中にできる基本図形を組み合わせ、「円と正方形、長方形」「円と三角形」など色々な図形がいっぱい繋がっていると見せておくことが重要。それを踏まえて三角形の学習に入ること、子どもの意識が辺の長さに向くようになる。

④学習活動の質的向上
 算数・数学の学習過程のイメージ（小学校学習指導要領（平成29年告示）解説算数編 P.8）のA2、D2の局面の描き方が重要。
 A2…三角形に関心が向いていくような道筋をどうつづけていくか。「三角形のみみつを探らなければ…」と子供が思うような学習活動を位置付ける。
 D2…他の概念との異同をはっきりさせる。学習活動の中で「異」だけでなく、「同」も扱うことが大切。

